



「自分で使った食器は、自分達で片付けます」弘前市城西住宅にて



「夜の憩いのひととき！」岩木町高屋住宅にて

拓光園では、知的な障がいを持ちながらも地域で暮らすことを目指して、これまで多くの取り組みを行ってきました。社会生活をおくるための技術を身につけたり、職場実習での経験を積んだりして来た結果、今年度4月より8名の利用者の方が拓光園を巣立ち地域で生活していくこととなりました。

岩木町高屋にある住宅は、昨年度も自活訓練事業などで利用してきましたが、4月からは女性4名が入居し、新たな生活を開始しました。住宅は岩木町のバス路線に近く、近隣には、コンビニなどもあり、また公共機関も充実しています。入居者は皆、日中は相馬村のねぎ栽培農家に職場実習に出かけていますが、住宅に帰ってからは、一緒に

食事をして、各自の役割を協力して行い、また、語らいや憩いの一時を過ごしています。パートの職員が朝夕の食事などの支援に当たっていますが、拓光園からもナイトケアの職員が定期的に訪れています。

弘前市城西地区にある住宅は、今年度より新たに利用することとなり、こちらも女性4名が生活することになりました。弘前市の閑静な住宅街にある一軒家で、バス停やスーパー、コンビニも近くにあり、暮らしやすい環境条件が整っています。また暮らし始めたばかりであり、戸惑いも多い中、少しずつ今の生活を楽しむゆとりも見え始めてきました。こちらもパートの職員が朝夕の食事などの支援をし、拓光園の職員が定期的に訪れています。

地域生活をして

知的障害者
更生施設
拓光園

れたりと思いいの暮らしぶりです。各人が自分で考えて、自分で判断して決めるということを基本に据えて、行動できるようになってほしいと考えています。

それぞれの住宅で、近所の方々からは、温かいご理解をいただき、入居者の皆さんも快適な地域生活をおくる事ができています。知的な障がいがある様子です。あっても地域で暮らすことができるんだという自信を本人たちが抱き、そしてそれが、拓光園で生活する多くの方々にも伝わり、地域生活の輪が広がり続けることを願ってこれからも支援していきたくと考えています。

峰のひかり

発行人 七峰会
社会福祉法人 理事長 奥田 稔
〒036-8356
青森県弘前市大字下白銀町21-8
電話 (0172) 33-8861
FAX (0172) 33-8862

昼まで
待てな〜い

身体障害者
療護施設
山郷館

山郷館デイサービスセンター弘前の昼食が好評ということで紹介しましょう。

我がデイサービスのランチは、レストラン風。まるで『ビストロ弘前』と呼びたいその内容は、時にはフレンチだったり、イタリアンだったり、また中華・和食といったようなバラエティー豊富なメニューと盛り付けの良さ、そして抜群のおいしさです。三人のシェフがそのビストロを支え、利用者の方々からも「細かい配慮があり大変満足している」、「食器もセンス良く食欲をそそる」、「何から何まで手作りで大変おいしい」、「デザートまでとつても手が込んでいる」など、たくさんの声が聞かれています。

また、利用者の方からのリクエストにもお答えしながら工夫しています。麺類や丼が食べたいという声があったときは、前日からスープを煮込むほどの本格ぶりです。その時もみなさんから大変好評でした。利用者の方だけでなく、職員までもがその日のメニューのレシピをもらっていく状況です。これからも、見て楽しんで、食

べておいしくて、そんなランチを提供していきたいと思えますので、よろしく願います。



本日の献立



- かきあげ二種
- 牛肉とじゃがも
- 帆立と三ツ葉
- 大根おろし添え
- いかとアスパラガスの梅肉和え
- みそ汁・ご飯
- 漬け物・煮豆
- ごまぶりん

汗した結果を 喜び合える時

決算手当支給

社会就労
センター
旭光園

「これをもらうと、今年も良く仕事が出来たなアと思うし、これからは頑張るぞとやる気が出ます」今年ももらったお金で、いつも助けてくれる両親に何かプレゼントするつもりです。…決算手当の支給日、手当の入った袋を手利用者の方が嬉しそうに話してくれました。

旭光園では、毎年五月に前年度の売り上げの剰余金を決算手当として利用者の方に支給しています。

昨年度は、依然として経済不況の続く中、作業の受注量も大幅に減少する状況にありました。中でも、主力作業の一つであるポリエチレン製品（ポリ袋・レジ袋等）部門は、海外製品の大量流通やエコロジー重視の時代の流れから大苦戦、前年度の売り上げから大幅な減収という苦境。これらの状況に、シール・ラベル印刷部門・割り箸部門の健闘と、できる限りの経費削減、また、無駄を排除することに対応しました。

稼働のストップしている機械を見ては「今年の決算手当では期待できないな」という寂しい声も聞

かれていましたが、「皆さんの頑張りでどうか昨年度並みの決算手当が支給できます」の施設長からの発表に、一様に安堵と喜びの表情を見せていました。

中央では、景気回復の兆しが見えてきたとか？地方では全くその気配はなく、今年度も昨年度以上に苦戦が予想されます。旭光園では、今年度の最重要目標として「売上高の安定と工賃の現状維持」を掲げました。また、その対策として、授産活動検討委員会を設置し、「今出来ること」また中長期的な展望を検討していくことになりました。

厳しい現状ですが、堅実な取り組みを心掛けていきたいと思えます。



「心機一転、今年もがんばろう！」軽作業部門

自信を力に変えて
—グループホームの
先にあるもの—

知的障害者
通称
拓心館

Kさん(41歳・男性)は、10年間のグループホーム生活を終えて、この4月からアパートでの一人暮らしを始めました。理由は「プライベートの時間をもっと欲しい」という希望を持っていましたが、裏を返せばグループホームの生活形態に、多少の不自由さを感じていたようです。

仲間とはいえ、他人と一緒に暮らすとなると細かな摩擦は自然発生するだろうし、最低限のルールも生じます。それでも十分満足している方はたくさんいますが、Kさんは一人暮らしを望みました。

不安と現実

新しい生活に踏み出すことに、全く不安がなかったわけではありませんが、本人は「ホームヘルパーによる家事援助(食事作り)を受けるってどういうこと?寝坊して遅刻したらどうしよう、会社が遠くなっちゃった」、支援する方は「金銭管理はきちんとしてくれるだろうか、変なセールズに騙されないか、健康は…」などなどを思いました。でも、転居して1か月半、「自分の給料で水道・光熱費、食費、通信費、小遣いを賄っている。自

分が生活を組み立てている」という実感が深まるにつれ、表情にゆとりが感じられるようになりました。また、この暮らしを大切に思うのか、自分を律する気持ちも高まったようで「仕事を休まない。ずっと働けるように頑張りたい」と話してくれました。

その人に適した生活とは

拓心館グループでは、民間アパートへの移行を、今後も積極的に進めていく予定です。ただ、当然のことですが、それぞれの個性を見極め、適性を判断する必要があります。なぜなら、一人暮らしにこだわる人、「一人より二人」を希望する人、グループホームや施設の生活に馴染み、その先を考えなくなつた人たちなどいろいろある中で、本人の言葉だけではなく、性格や行動様式などを総合的に見て、一番ふさわしい生活を選ぶことが重要と思うからです。

これからが大切

生活することの大変さ、自由と孤独が裏腹な一人暮らしの難しさを、Kさんはこれから痛感するのでしょうか。でも、引き換えに獲得した自信は、今後ますます貴重になるはず。それが揺るぎなく生きていく力に変われるように、本人の心に寄り添いながら支援していきたいと思っています。

個別グループ
ケア報告

〓〓〓したい桜まつり〓〓

特別養護
老人ホーム
サンプラホーム

「利用者の方が、よりその人らしい生活ができるように、一人ひとりのニーズに答えられるよう支援する。」という願いからホーム内を4つの生活単位に分け個別グループケアが開始したのは昨年の春の事でした。(平成十五年)

余暇活動も生活の主体者である利用者の方の意見により各々グループで計画実行するというシステムとなつた事から、春の行事『桜まつり』も、これまでの施設の行事という捉え方から、一人ひとりの思いを大切に取る取り組みとなりました。

例えばAグループを紹介しましょう。特に話し合いという場は設けませんが、昼食前のちよつとした時間、お風呂上りのさっぱりとした時間、廊下での立ち話や就寝前の着替えの時、話題は桜まつりです。井戸端会議的な会話の中から一人ひとりの思いが感じられます。さて、ここでスタッフがお手伝いします。

①弘前公園②桜林③ホーム内桜見学と三つのコースに整理し、同じ思いの利用者の方と今度は具体的な計画をします。

お弁当は?

— 出店のおでんでいい —

— いやいや、花見弁当だ —

— 雨が降つたらどうしましょう? —

— 中止にする —

— だめだめ、せめてドライブしたい。せつかくだし猿賀に行きたい —

— 延期にして天気の良い日に行く (全員賛成) —

— 猿賀は別の日にいこうよ — (大賛成)

— 娘に会いたい —

— 公園で待ち合わせしましょうか? —

— こうして、桜まつりは行なわれたのです。 —

これまでの集団画一型の行事では、利用者の方のスタートラインは当日ですが、個別グループケアの場合は、同じ時間の流れの中でスタッフはより楽しい場の提供と話し合いを自然に行なうだけです。近ごろは、利用者の方の個々の交流も探まり『次は〇〇したい』と仲間作りも始まっているようです。



社会福祉法人 七峰会 平成15年度 決算報告書

(貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書)

これは平成16年5月10日・11日・12日・13日・14日に法人監査会を行い、平成16年5月24日に評議員会の同意を得て、同日理事会において承認されたものです。尚、閲覧は法人本部事務所にて可能です。

貸借対照表

(平成16年3月31日現在)

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
流動資産	970,577	流動負債	186,895
固定資産	2,585,431	固定負債	89,737
基本財産	1,564,758	負債の部合計	276,632
その他の固定資産	1,020,673	純資産の部	
		基本金	575,262
		国庫補助金等特別積立金	757,915
		その他の積立金	505,970
		次期繰越活動収支差額	1,440,229
		(うち当期活動収支差額)	341,671
		純資産の部合計	3,279,376
資産の部合計	3,556,008	負債の部及び純資産の部合計	3,556,008

事業活動収支計算書

(自平成15年4月1日
至平成16年3月31日)

(単位：千円)

勘定科目	金額
事業活動収入	1,692,037
事業活動支出	1,402,349
事業活動収支差額	289,688
事業活動外収入	158,760
事業活動外支出	160,743
事業活動外収支差額	△1,983
経常収支差額	287,705
特別収入	7,412
特別支出	645
特別収支差額	6,767
当期活動収支差額	294,472
前期繰越活動収支差額	1,098,559
その他の積立金積立金額	47,198
次期繰越活動収支差額	1,440,229

資金収支計算書

(自平成15年4月1日
至平成16年3月31日)

(単位：千円)

勘定科目	金額
経常活動収入	1,806,991
経常活動支出	1,448,461
経常活動資金収支差額	358,530
施設整備等収入	7,350
施設整備等支出	130,113
施設整備等資金収支差額	△122,763
財務活動収入	51,153
財務活動支出	133,258
財務活動資金収支差額	△82,105
当期資金収支計当差額合計	153,662
前期末支払済資金残額	624,667
当期末支払済資金残額	778,329

脚注 1. 減価償却費の累計額 1,376,426千円
2. 徴収不能引当金 0千円

注記 棚卸資産については流動資産より除く

総合支援	知的障害者援護	身体障害者援護	特別養護老人ホーム	居宅介護支援事業
弘前市委託事業 身体障害者相談支援事業 弘前市障害者生活支援センター TEL 31-2400 青森県指定 津軽障害者就業・生活支援センター TEL 82-4520	拓 拓 心館 TEL 82-4520 地域生活援助事業 生活自立訓練事業 地域生活支援センター 勇心学園 光園 TEL 96-2331 通所利用事業 自活訓練事業 拓光園デイサービスセンター 拓光園短期入所支援センター 拓光園障害児短期入所支援センター	旭 山 郷館 TEL 97-2211 身体障害者(児)短期入所事業 山郷館デイサービスセンター 山郷館デイサービスセンター 山郷館訪問介護センター 山郷館訪問介護センター 山郷館訪問介護センター 山郷館訪問介護センター 黒石 光園 TEL 57-5155 通所相互利用事業 旭光園身体障害者短期入所事業 身体障害者福祉ホーム さわら	弘前市委託事業 サンアップル在宅介護支援センター TEL 97-2131 サンアップルホーム TEL 97-2111 サンアップル短期入所生活介護センター サンアップルホームデイサービスセンター サンアップルヘルパーセンター グループホームアップル (痴呆対応型共同生活介護)	山郷館居宅介護支援センター TEL 97-2941 サンアップル居宅介護支援センター TEL 97-2131